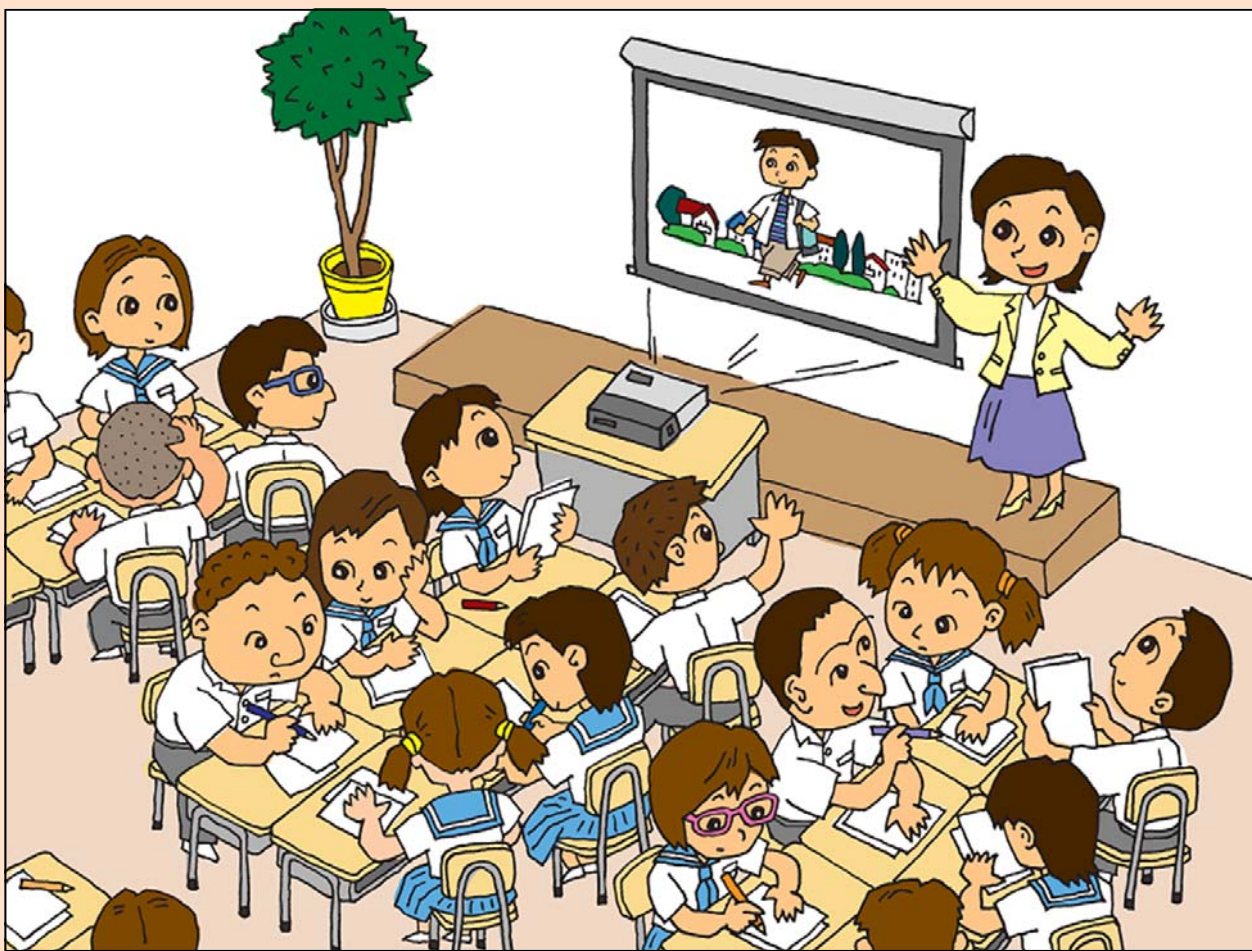




津波防災ワークショップ 解説書 (導入編)

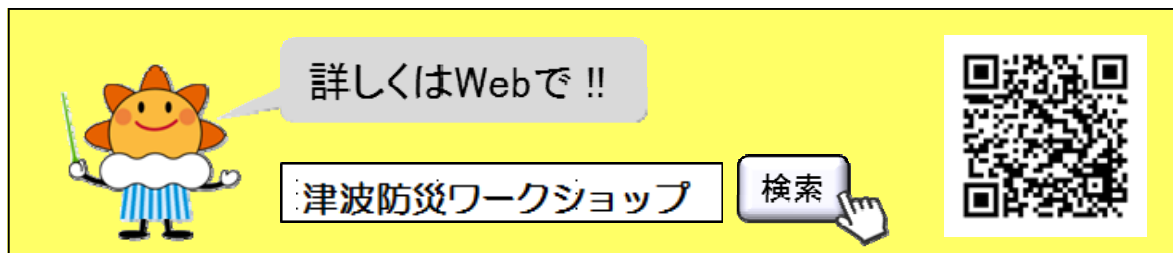
平成30年3月

はじめに

このコンテンツの資料一式や参考資料は、福岡管区気象台のホームページに掲載しています。

<URL>

http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/chosa/education/tsunami_workshop.html



福岡管区気象台 平成29年3月 発行
平成30年3月 改訂

問い合わせ先

福岡管区気象台 防災調査課
〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目2-36
電話 092-725-3614

はじめに

平成23年（2011年）3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生し、津波によって多くの尊い命が奪われました。自然の猛威を目の当たりにし、人間の力がいかに無力であるかを思い知らされた一方で、釜石市が取組んだ防災教育により多くの児童・生徒が自らの命を守る行動を取ることができたという事実が、これからの防災に一筋の灯りを燈してくれました。

「津波防災ワークショップ」は、釜石市での防災教育や津波災害で実際にあったことを参考に、「率先して避難すること」「自らの命を守るために最善を尽くすこと」「家族みんなが助かるためにお互いを信じてそれぞれ避難すること」などについて主体的・対話的に学べるよう構成されています。

内閣府では、次の巨大地震の可能性が高いと考えられている南海トラフ地震について、想定される地震の揺れや津波の大きさを公表しています。これによると、東海から九州にかけての太平洋岸の広い範囲で震度7の揺れと10メートルを超える巨大津波が想定されています。

災害は「まさか」ではなく「いつか」は起きるものという意識を持って、備えていくことが大切です。このコンテンツを学校や地域でご利用いただき、「生きる力」を育む防災教育の一助となれば幸いです。

最後に、「津波防災ワークショップ」の製作にあたり、ご協力いただいた皆様、映像資料等を提供いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

平成30年3月

【津波防災ワークショップ解説書の構成について】

解説書は「導入編」「基本編」「短縮編」「資料編」に分かれています。

「導入編」＋「基本編」＋「資料編」

もしくは

「導入編」＋「短縮編」＋「資料編」

の組み合わせでご利用ください。

津波防災ワークショップ

1 概要

時間：90分（基本編）、45分（短縮編）

対象：小学校高学年から大人まで

人数：10人程度～

※ 解説書は5名×6班を想定した内容となっています。人数に応じて発表回数を調整してください。

2 目的

大きな地震が起こると海岸付近では大きな津波のおそれがあることを知り、自らの判断で地震や津波から命を守るための的確な行動がとれるような知識や意識を育んでもらう事を目的としています。

3 目標

以下のワークショップの主題について学ぶことを目標としています。

- ①自分の命は自分で守るという姿勢が大切であること。
- ②自分が率先して避難すれば、周囲の人も避難できるようになること。
- ③いざというときに家族の心配をすることなく避難できるよう、日頃から避難について家族と話し合っておくこと。

準備するもの

- 学習プリント（A4サイズ）
- 地図（A3サイズ 2種類）
- 行動メモ（A3サイズ）
- 気象庁の詳しい情報（A4サイズ 4つ切り）

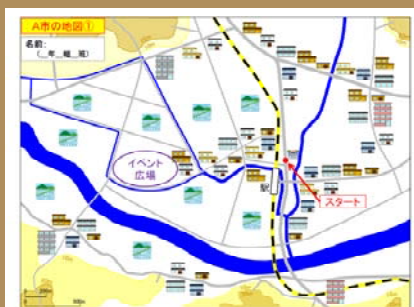
※これは、地震発生から9分後の場面（スライド17）で配布します。

- マジック
- 定規
- 付箋紙

○が必ず必要なものです。●があると進行しやすくなります。

学習プリントは全員に配布してください。その他の準備品は、班の数だけ準備してください。

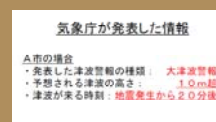
準備するもの



地図



行動メモ



気象庁の詳しい情報



学習プリント



マジック

付箋紙

定規

イントロダクション

5分間



学習めあての
確認学習プリントを活用することにより時間が短縮できます。
短縮版では必須です。

グループワーク 40分間（基本編）、25分（短縮編）



各班での話し合い



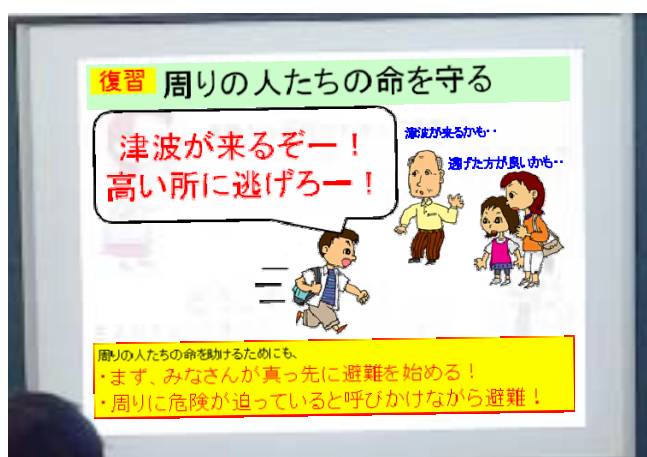
地図上で逃げるルートを記入

発表 20分間（基本編） 10分（短縮編）



各班の発表

ふりかえり・まとめ 25分間（基本編） 5分（短縮編）



各場面のふりかえり（解説）
短縮編では省略します。



まとめ

※ 進行時間は大まかな目安です。

ワークショップの留意事項

1 ワークショップの難易度

この津波防災ワークショップは、専門的な知識をもっていない方でも実施できるように作成してあります。さらに、資料編のふりかえり資料は、理解をさらに深めるのに効果的な事項をまとめました。必要に応じて資料の追加や取りまとめの参考にしてください。

また、詳しい知識を知りたい場合には、資料編の参考資料もご覧ください。

2 グループワークの進め方

グループワークでは、主体的な話し合いとなるように、自由な発想を尊重してください。また、グループでの話し合いができていない班があれば、説明を補足し議論が円滑にできるよう手伝ってください。

3 発表時のポイント

各班の発表は、何かしらの褒めるべき行動に注目し、司会はそのような行動を褒めることを心がけてください。以下が考えるポイントです。

- ・迅速な行動ができていたか。
- ・情報を自分から入手しようとしたか。
- ・周囲の人のことを考えているか。
- ・最善を尽くすことができたか。

良くなかったところについては、その班を批判するのではなく、参加者全員の検討課題として位置づけていきます。

4 コンテンツの利用について

このコンテンツは、先生方がご自分の授業スタイルで実践できるように、著作権を気にせず自由に加工できるものにしています。この動画は、本ワークショップの中での利用のほか、地震・津波防災の普及啓発の中で利用することができます。

5 映像・イラスト等について

このコンテンツでは、津波の被害写真などは使用せずに、イラストやアニメーションなどを用いるように配慮いたしました。

地震の映像や津波の実験映像については、教育的な効果を勘案し利用しています。参加者の皆様に合わせて別のものに變更しても構いませんが、ワークショップの主題が薄れないように留意をお願いいたします。

津波防災ワークショップ

解説書

(導入編)

福岡管区气象台 平成29年3月 発行
平成30年3月 改訂

問い合わせ先
福岡管区气象台 防災調査課
〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目2-36
電話 092-725-3614